

2007 年度第三回環境心理生理運営委員会 議事録 (案)

■日 時：2008 年 3 月 13 日 18:00-20:00

■会 場：日本建築学会会議室

■参加者：大井、宇治川、原（山中委員代理）、楨、大野、小島、宗方（記録）

■資料：

- ・議事次第（大井）
- ・第 2 回環境心理生理運営委員会議事録（大井）
- ・2007 年度第 4 回環境工学本委員会報告（大井）
- ・建築環境工学用教材（環境編・設備編）改訂 WG で討議した改訂の方向性について（宗方）
- ・環境工学用教材に対する環境心理生理運営委員会としての意見（宗方）
- ・2007 年度第 5 回環境工学本委員会報告（大井）
- ・環境工学教材：環境心理生理関係で掲載提案項目とそれをまとめる「目次項目案」（宗方）

■報告事項：

(1) 環境工学本委員会（第 4 回・5 回）

- ・2008 年の大会の研究協議会テーマ「建築・都市・地球環境 ～今、建築と都市に求められる環境性能」
- ・本運営委員会からはとりあえず大井主査をスピーカーとしてあるが、具体的なテーマが固まり他に適任者がいれば交代する。
- ・学術推進委員会、AIJ デジタルライブラリーでのシンポジウム等の資料の販売だが、サイト上での販売は当初は実際のシンポジウム時と同価格とし、2 年経過したら無料配布とすることとしているが、シンポジウム主催側から要望があれば、2 年経つ前に価格を下げて販売することも可能となった。
- ・大会オーガナイズドセッションは司会が講評をすることになった。
- ・次回大会の一般講演においては、使用できる機材はプロジェクターのみとなった。OHP/OHC は使えない。また、梗概集は DVD-ROM となり、全てが一枚となった。
- ・昨年度は大会時に行われた環境工学の懇談会については、今後もやはり大会時に行うこととされたが、毎年開催とはしない。2008 年度は開かれない。
- ・環境工学名簿が発売されたので買ってください。
- ・2008 年度開始の若手奨励特別研究委員会設置提案募集がある。この予算は各運営委員会に配分している予算の 5~10% を配分する→大井主査より、予算を取られるだけでは意味がないので、2009 年度は心理生理運営委員会としても検討してみたいかがと提案あり。申請は 2 回/年（3 月末と 9 月末）ある。
- ・2008 年度の大会は、2007 年度大会での発表登録日未納者は発表登録が出来ない。連名の場合も該当するため、このような人が連名者であると Web 投稿が出来ないので要注意。なお、4/20 の Web 投稿締切日は日曜だが、問合せに備えて事務局担当者は出勤するとのこと。
- ・他学会と共同でシンポジウムなどの催しを行う際に、双方の学会を主催とすることは問題であると注意された。
- ・本運営委員会への 2008 年度予算は、上述した若手・・・に取られて若干減額。そこで、2008 年度の運営委員会内での配分としては、プログラム編成会議と大会開催時を利用して運営委員会・小委員会を開くよう日程を調整してもらうことで 2007 年度より旅費を減らす方針とする。具体的な配分金額については、後日大井主査よりメールにて連絡をするので確認すること。
→なお、環境工学本委員会内での予算配分時には出版物の重みが大きい（黄表紙の 5 倍、シンポ参加者数の 50 倍の重み付け）ので、出版を頑張ること。

(2) 関連刊行委員会活動状況報告

- ・学術用語集、環境心理尺度ハンドブックのいずれとも原稿を止めている人は頑張ること！

(3) ヒューマナイズング小委員会活動報告

- ・報告書を作成中。印刷、配布においては、予算の残額（1 万円程度）を用いる。

・宇治川委員は3月末の竹中工務店定年退職をもって建築学会を退会の意向。本人主宰（世話役）による「流浪塾」という研究会を随時開くので、それをヒューマナイズング小委員会などの企画とすることも計画している。第一回は小林茂雄さん（武蔵工大）を話題提供者として、4月1日18時から建築会館で行う。（テーマは「落書きのある街・アートのある街」）。サイトは<http://ruroujyuku.hp.infoseek.co.jp/index.html>

(4) 感覚・知覚心理小委員会（屋外環境における環境評価WG）活動報告

- ・2/2にWGを実施。06年度、07年度の実験結果の報告を行った。
- ・OSの発表分担を議論した。
- ・次回は4月か5月に開催。
- ・成果発表のシンポジウムを5/24に開催予定。

・なお、この種のシンポジウムの開催告知に環境工学者名簿のe-mail情報が使えるので活用して欲しい。使用に当たっては本委員会に申請が必要であり、本委員会委員長宛に「使用目的」「送付する情報の内容」「本目的で1回の使用とすることの誓約」の載った依頼を出せばよい。次回本委員会は3/27なので、感覚・知覚心理小委員会のシンポジウムも利用が可能である。学会事務局の酒井さんに詳細問合せされたし。

(5) 環境心理小委員会（環境心理学の学際的展開WG）活動報告

- ・次回小委員会はプログラム編成会議直後の5/9の16:00を予定。
- ・WGの次回開催を3月から4月に修正した。
- ・建築計画運営委員会の空間研究小委員会から生理計測をテーマにした研究会の共催を打診されており、辻村委員と佐野委員が演者として講演を行なうことになっている。開催は6月を予定。

■審議事項：

(1) 2008年度の本委員会の委員構成

- ・以下のように決めた（括弧内は選出理由）
大井（主査）、楨、秋田（以上、幹事）、讃井、山中、小島（以上、小委員会主査）、西名、渡辺（以上、WG主査）、大野、中村、松原（以上、運営委員会主査経験者）、宗方（教材刊行WG連絡）

(2) 2006年度教材データベースWGの成果の取り扱いについて

- ・出版は取りやめ、CD-ROMによる電子情報の配布とする。配布数は140枚程度で配布先はこれから検討する。

(3) 2008年度の各種活動計画

- ・チュートリアルは大会直後の9/21の10:00-12:00及び13:00-15:00に開催することとした。会場は検討中。幹事として安田女子大の大石さんをお願いしてある。初回の環境工学本委員会（5月半ば？）に企画をかける必要有り。日程については早めに各小委員会に伝えること。
- ・大会プログラム編成会議では、以下の委員に作業を依頼する：西名（実際は代理として大石さん）、讃井、宗方、大井、小島
- ・大会OSは11件の応募があり8件に絞った。採用分については、学会事務局から通知する。
- ・大会研究協議会（前述）については、何を議論に入れるか意見を出して欲しい。

(4) 環境工学教材に心理生理関係で載せる内容の項目構成について

- ・前回、教材検討WGに本運営委員会として出した掲載図表例を元に、その項目構成を議論した。
- ・項目構成案としては、以下のものが出された。

「環境工学全体のそもそもの位置づけ・環境の目標系」

→快適性の概念、マズローの図、WHOの3指標、快適性の3段階、環境工学（設備？）者は快適ばかりを追及するが、既にそれだけの時代ではないことを示すこと、など

「人間環境系の捉え方」

→S-R系、S-O-R系、評価構造図、パーソナルスペース、ウェーバーフェヒナー、閾値、感覚器官ごとの指標・要素・物理量の性質や処理方法の違いの比較

「心理的な環境評価手法」

→心理学的な尺度構成法、言語評価法、ME法、一対比較法、基礎的な測定法

- ・最近では環境工学への入り口としての役割が心理生理分野に期待されているとの情報がある。
- ・5月23日までに目次項目をWGに上げる必要があるので、宗方委員から5/9の運営委員会で議論できるように、早い時期にメールでたたき台を流す。

■次回開催予定：

- ・5月9日のプログラム編成会議の後に2008年度第一回を開催する。
- ・環境心理小委員会が同日16時から予定されており、当日使用できない建築会館に替わる会場を検討しているので、それに相乗りさせてもらう方向とする。